

開催年月日 令和5年3月2日

質問者 日本共産党 菊地 葉子 委員

担当部課 総合政策部交通政策局交通企画課

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>一 地方交通について</p> <p>それでは、地方交通について伺っていきます。</p> <p>幹線札幌開業に伴いJR北海道から経営分離される函館線の「長万部・小樽間」は協議会においての協議の結果バス方式とすることを確認した。と知事は一般質問で答弁しました。</p> <p>しかし、沿線自治体の住民は暮らしのこと、地域経済のことなど様々に懸念や不安を抱えており、地域で住み続けるため地方交通のあり方については尚慎重な議論が必要と考え、以下数点にわたって伺います。</p> <p>(一) 協議会の検討状況について</p> <p>1 高校生の通学への対応について</p> <p>地域協議会の協議の中で、利便性という意味では、路線バスの本数や時間帯が悪くならないようにしていただきたい。と発言した首長がいらっしゃいます。住民の利便性が悪くなるようなことがあってはならない、これは苦渋の選択としてバス転換を選択した首長としての矜持だとも考えますが、それぞれの区間での検討で利便性が向上するような内容になっているのでしょうか。</p> <p>余市・小樽間のバスルートの検討状況で、速達性の確保とした小樽市内の高校近辺を通るルートでは、利便性を考慮して、高校生の授業時間に合わせたダイヤ検討がされています。</p> <p>高校生は授業時間だけ考慮すればよいということにはならず、クラブ活動や学校行事での変則的な通学時間に合わせた交通網の確立が必要となります。</p> <p>これまでも列車の運行時間の変更に合わせた高校生の通学への対応が問題になってきましたが、高校生の学生生活まるごと考えた総合的な検討が必要です。どのように検討されているのか伺います。</p> <p>【指摘】</p> <p>コロナ禍にあった昨年7月とは、今、また今後、海外からの観光客の乗降が増えるなど、状況は変化します。協議会での協議にあたっては、そうした状況変化に対応した、改めた調査も必要と指摘します。</p>	<p>【並行在来線担当課長】</p> <p>地域交通の確保に向けた協議状況についてでございますが、北海道新幹線札幌開業に伴い、JR北海道から経営分離される函館線の「長万部・小樽間」につきましては、昨年3月の後志ブロック会議において、「バス方式」と確認した以降、幹事会の場では、地域の実情に応じたバスルートやダイヤの設定といった観点から、様々な検討を進めてきたところであります。</p> <p>また、バス運行に向けた検討にあたりましては、利用者の動向を具体的に把握する必要があるとの考えの下、昨年7月に道と沿線自治体が協力しながら、「長万部・小樽間」のJR乗降調査を実施した上で、利便性の確保を念頭においた検討を行うとともに、とりわけ、「余市・小樽間」は、朝夕の通学、通勤などの時間帯におきましては、利用者が多い実態にありましたことから、引き続き、沿線自治体や関係者からの考えを伺いながら、利便性の高いバス運行に向けた協議・検討を進めていく考えであります。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>2 バスの乗り継ぎについて</p> <p>鉄道の利便性は線路がつながっていることです。今は長万部から小樽まで列車一本でいけますがバスになった場合も可能なのでしょうか。</p> <p>乗り継ぎ乗り継ぎの移動など高齢者にとって大きな負担になりますがどのような運行状況になるのか伺います。</p> <p>(二) バス運転手の実情について</p> <p>バス運転手不足が現状でもバス運行路線の廃止につながっている現実があります。また運転手の高齢化も深刻と伺っていますが、北海道におけるバス事業者のバス運転手をめぐる実態はどのようになっているのか。利便性に当たっては当然バスの増便も課題になってきますが、対応できるのか併せて伺います。</p> <p>(三) 新幹線運賃について</p> <p>余市小樽との個別協議を終えた記者会見で、当時の交通企画監は新幹線や高規格道路の延伸など新しいインフラを活用し、交通ネットワークを再構築することで、地域住民や訪問客の利便性を向上させることができる。と述べましたが、新幹線を利用することで、移動に関する交通費の負担は大きくなるのでありませんか。新幹線運賃や運行状況について明らかになっているのか伺います。</p> <p>判断材料は何もない訳です。誰も彼もが新幹線を利用できる訳でもないのに、ことさら利便性だけが強調されていると感じます。</p>	<p>【並行在来線担当課長】</p> <p>利便性の確保についてでございますが、経営分離後の「長万部・小樽間」の地域交通をバス運行により確保していくためには、多様化する地域ニーズや沿線人口の減少など、地域の実情を考慮したバスルート及びダイヤの設定などが必要なことから、それぞれの地域を「長万部・黒松内間」、「黒松内・倶知安間」、「倶知安・余市間」、「余市・小樽間」の4つの区分に分けて、協議・検討を行ってきているところであります。</p> <p>協議会といたしましては、引き続き、通勤や通学、通院などの利用者目線に立ちまして、乗り継ぎ等、移動に係る負担軽減が図られるバス運行となりますよう、地域住民の皆様のご意見などを踏まえながら、関係する交通事業者や沿線自治体の皆様と丁寧に協議・検討を行っていく考えであります。</p> <p>【地域交通計画担当課長】</p> <p>バスの運転手についてでございますが、道内のバス事業者は、高齢の運転手等の退職や新規採用者数の減少などから運転手不足に直面しており、運転手の人材育成や確保は重要な課題と認識しております。</p> <p>こうした中、後志地域におきましても、利用者のニーズを踏まえたバスルートやダイヤを設定するためには、運転手確保が重要なことから、道においては、「後志地域公共交通活性化協議会」などを通じ、市町村や事業者の皆様と連携しながら、バス会社の職場体験会の開催や動画を活用したバス路線の魅力の情報発信、更には、運転体験をセットにした合同就職相談会の開催や若年者向けのガイドブックの作成などについて検討を進めているところでございます。</p> <p>道といたしましては、こうした取組を通して、交通事業者の皆様をはじめ、地域との連携を密にしながら、地域の実情や利便性に配慮した地域交通の確保に向けて取り組んでまいります。</p> <p>【新幹線推進担当課長】</p> <p>新幹線の運賃などについてでございますが、新幹線の営業主体でありますJRにおきましては、鉄道事業法に基づき、運賃、特急料金、運行計画などについて、所要の認可申請、また、届出を要することになってございます。</p> <p>昨年9月に開業いたしました西九州新幹線などの例におきましては、運賃については開業の概ね6ヶ月前、運行ダイヤにつきましては概ね3ヶ月前に、申請・届出の内容に基づき、JRから公表されているところでございます。</p> <p>北海道新幹線新函館北斗・札幌間におきましても、同様の対応がなされるものと考えております。</p>

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>(四) 今後の取り組みについて</p> <p>今後の取り組みについてですが、小樽から余市に向かう路線にある蘭島地域は夏になると家族連れで賑わう開設から120年続く人気の海水浴場で、いまでも札幌方面から列車を利用して海水浴場に訪れる人が一定いるといます。路線の廃止はこの地域の活性化に大きく影響すると地域住民からの声です。また、仁木町ではワイナリーの開設が続いていて、JRを利用しての見学など、観光需要はまだある。一度廃線にしてしまえば取り返しがつかない。路線を残すための努力をやめてしまっているのか、といった声が寄せられています。</p> <p>現在、協議会では「バス方式」とする判断には至っていますが、住民にとって利便性の確保が図れない場合はどのように地域交通の確保を図っていくのか伺います。</p> <p>新幹線の札幌延伸のために、JR北海道からの経営分離に同意せよと迫られ、維持管理費の膨大な負担を前にして、鉄路を残すかどうかの判断を迫られてきたのは沿線自治体です。</p> <p>でも、函館本線は北海道の重要幹線であって、なぜ沿線自治体だけが存廃についての判断を迫られるのか、私は非常に理不尽だと考えていました。</p> <p>何より、北海道が鉄路を残すために、もっともっと力と知恵を尽くしてほしいというふうに思います。</p> <p>今、様々な観点から協議を行うと、ご答弁いただきましたが、立つ位置は違うと思いますが、私は、引き続き、路線存続のための発信を続けていきたい、そのことを申し上げまして質問いたします。ありがとうございました。</p>	<p>【鉄道担当局長】</p> <p>今後の取り組みについてでございますが、経営分離後の地域交通の確保方策の検討については、現在、後志ブロック会議におきまして、バスによる新たな交通体系の構築に向けまして、沿線自治体をはじめ、関係する交通事業者などからの協力を得ながら、利用者のニーズに対応した様々な検討を行っており、これまでも幹事会などの場で関係者の皆様の考えを伺いながら、議論を進めてきたところでございます。</p> <p>道としては、今後、新幹線の新駅設置や高規格道路の延伸などといった後志地域を取り巻く交通環境の変化を見据えながら、地域の将来に向けた新たな交通体系が利用者にとって利便性が確保されたものとなるよう、引き続き、地域の関係者が一体となりまして様々な観点から協議を行いながら、地域交通の確保に向けた取り組みを進めていく考えでございます。</p>